

14
内閣情報部三・一〇 情報第七號

—張群の對米放送演説—

同盟來電—不發表

香港十日電

行政院副總長張群は九日重慶で左の如き對米ラヂオ放送を行つた

日本の提唱する所謂東亞新秩序なるものは單に支那の征服と第三國の在支權益排除を目的とする日本の大陸政策の新しい名稱に過ぎない夫は東亞の征服、極東民族の壓迫、極東からの米國勢力の絶滅及び極東をして世界征服への基地たらしめることを意味する之は日本の傳統的政策であり又日本の途方もない夢想である。

内閣情報部三・一一

情報第一號

重慶 日本語放送 (六日) (關東遞信官署遞信局聴取)

中國軍に捕虜となつた日本兵の談話を紹介する(註、之は三月四日に第一回を放送せるも當局にては雑音の爲聴取不可能)先づ藤本氏は「僕は商業學校卒業の者です、昨年召集されたのであるが、兵種は工兵である、工兵は歩兵等に先だち道路や橋を修理しなければならぬが、完全な武装が許されぬので何時も危険晒されてゐる譯である、昨年十二月橋を修理中突然遊撃隊に襲撃され捕はれたものである、僕は從來僕等が中國に捕まれば拷問に依つて無理にも白状せられた上虐殺や擲り殺しにされるに聞いて居たので非常に心配してゐた、所が少しも慮められぬばかりか兄弟の様にとても親切にされるのである、初めは不思議でならなかつたが近頃ではこの親切が身に泌みて判つて來た、今回の中國への侵略戦争に依つて中國自身が災難を被つたばかりでなく日本人民も又苦しみに落し入られたのである、日本人民はフアツシヨの下では幸福にはならぬであらう、日本フアツシヨ主義者達は中國を侵略するのみでなく、蘇聯をも侵略せんと窺つてゐるのである、之は日本人民をして針の先程も幸福にするものではないのである、僕は過去二十五年間の誤りを今にして清算すべきであつたことを知つた、中國が侵略に抗戦することは結局日本人民を救ふことであつて、日本の爲に偉大なる事業を遂げることには外ならぬの